

医学部看護学科・医学系研究科看護学専攻自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準4 学生の受入 4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	学士課程 ○学部の入学者数は、入学定員の1.0倍となり適正な数を維持している。【資料1】 ○平成31年度入学者選抜試験の志願状況は、一般入試（前期・後期）並びに特別入試（推薦）では2倍を上回っているが、看護大学の増設が影響なのか、社会人特別入試への応募者が初めて0人となった。現状調査（分析）を実施した。【資料2-1～2-2】 ○入試改革WGを立ち上げ、教学企画室の教学IR作業部会から提供された入試分析席データ（志願状況、学生の履修状況など）基に協議を重ね、2020年度入試からの募集定員の見直しなどの改善を策定し、平成31年4月開催の入試委員会で報告する。【資料3】 ○3年次編入学は、平成32年度から学生募集をしないことが確定した。これによって、入試業務が整理され、教職員の負担が軽減し、他の入試業務への効果的な取り組みに繋がった。【資料4】 修士課程 ○看護学専攻の入学者は2名であり、入学定員（8名）の25%の確保であった。【再掲：資料1 / 資料2-1】 ○充足率向上のため、学務委員会を中心に協議を重ねている。当面は、看護学科主催の研究（研修）会や学外講師として出向く実習施設などに募集要項やパンフレットを持参し、広報活動に努めるにした。【資料5】	資料1：入学定員の充足率 資料2-1：平成31年度医学部看護学科・大学院医学系研究科看護学専攻入試選抜概況 資料2-2：志願者倍率、受験倍率、入学者の推移 資料3：入試改革WGで策定した見直し案（推薦入学 徳部宇入試、一般入試の見直しについて） 資料4：医学部看護学科3年次編入学の廃止について（文部科学省への説明資料） 資料5：教員会議資料（学務委員会報告）	医学部看護学科・医学系研究科看護学専攻の取り組み

基準5 教育内容及び方法 5 - 2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。(学士課程) 5 - 5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等(研究・論文指導を含む。)が整備されていること。(大学院課程)	学士課程 ○部局間協定を締結している南フロリダ大学の公衆衛生学科及びオーナーズ学部 の学生30名と教員3名が5月に本看護学科を来訪された際に、3年次必修科目 である「医療英語」を一緒に受講した。また、本学の外国人留学生18名をTA として採用し、4年次後期必修科目である「医療英語」で模擬患者役として参 加してもらい、看護師-患者間の医療面接ロールプレイを実施した。どちらも授 業も、ネイティブな英語に直接触れることで、効果的な学習機会の場となった。 【資料6】 ○平成30年8月14日から10月9日までの8週間、4年次学生2名に対して、 ディーキング大学における短期留学プログラムを実施した。英語力向上の学習効 果が見られ、引き続き、平成31年度における同プログラムの実施を計画してい る。【資料7】 ○平成29年10月に公表された「看護教育モデルコアカリキュラム」の内容を踏 えて新カリキュラムを策定し、平成30年10月23日付けで「岐阜大学看護学校 等変更承認協議書」を文部科学省に提出し、承認を得ることができた。本カリキ ュラムは平成31年度入学者が適用される。これまで以上に、看護実践能力の高 い人材の養成が期待できる。【資料8-1～8-2】 修士課程 ○院生の大多数が社会人なので、夕刻を中心に時間割を編成している。また、研 究指導、論文指導を院生と相談して、効率よく実施している。	資料6: NEWS Letter Vol.02(南フロリダ 大学学生30名と看護 学科学生との国際交 流) 資料7: ディーキン大 学における短期留 学: 30年度看護学科 留学プログラム結果 報告、次年度実施案 内 資料8-1: 岐阜大学看 護学校等変更承認協 議書(文部科学省申 請書類)(抜粋): 変 更事項理由書 資料8-2: カリキュラ ムデザイン 資料8-3: カリキュラ ムツリー	
基準6 学習成果 6 - 1 教育の目的や養成しようとする人材 像に照らして、学生が身に付けるべき知識・ 技能・態度等について、学習成果が上がって いること。 6 - 2 卒業(修了)後の進路状況等から判 断して、学習成果が上がっていること。	学士課程 ○卒業生72名のうち70名が看護師、保健師、助産師、養護教諭として就職し、 その内40名(57.1%)が県内に留まっている。前年度50.7%と比較し、県内定 着率は向上している。【資料9】 ○平成30年度国家試験合格率は、看護師98%、助産師100%、保健師100%で あった。【資料10】	資料9: 平成30年度 進路一覧・参考29年 度 資料10: 国家試験合 格状況	

	○ディプロマポリシーに関するアンケート（卒業時の到達度調査）を行った。その結果、学生の自己評価は5階評価のうちほぼ3.1以上であり、概ねディプロマポリシーを達成でき、とくに法的責任・規範を遵守する倫理観・職業観について優れた結果がみられた。【資料11- 】 修士課程 ○平成29年度から導入した大学院教育における達成度に関わる自己評価の回答より「科学的根拠に依拠した現状分析ができる」「組織の現状を的確に把握し、目指す目標に向けて、看護専門職としての役割と責任について説明できる」は高い評価がみられ学習効果が確認された【資料12】	資料11：ディプロマポリシーに関するアンケート結果（4年生）（学生卒業時、調査結果報告） 資料12：平成30年度（前・後）大学院教育における到達度に関わる自己評価分析集計結果	
基準8 教育の内部質保証システム 8-1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	学士課程・修士課程 ○（第1回）岐阜大学研究推進・社会連携機構 小林雅典特任教授、上原雅行准教授による研修会【社会と連携しながら研究を始めるためのポイント】を開催した。アンケート結果「研究テーマのヒントがもらえた」「相談する場所があることを知り有益であった」より、教員の研究・教育の質の向上に繋がった。 （第2回）教員及び実習指導を対象に「コミュニケーションの障害とその支援」を演目で滋慶医療科学大学院大学 岡 耕平准教授による講演会を開催した。アンケート結果から、「新人指導に活かしたい」「学生の関わりを見直すことができる」等、教育の質の改善・向上に貢献できたと判断する。【資料13】 ○前年度に改訂したリフレクションペーパーについて、表現の重複が除かれ、回答事項が整理され回答し易く修正した。より質の改善がなされた。【資料14】	資料13：・平成30年度第1回岐阜大学医学部看護学科・看護学専攻FD委員会企画【社会と連携しながら研究を始めるためのポイント】案内・アンケート結果 ・平成30年度第2回岐阜大学医学部看護学科・看護学専攻FD委員会企画「コミュニケーションの障害とその支援」案内・アンケート結果 資料14：学生のアンケート結果を踏まえたリフレクションペーパー（修正案）	

	○教育学部の河西栄二教授に協力頂き、教育学部授業（美術「彫塑」）を看護学科・看護学専攻 FD 委員会企画公開授業として実施した。アンケート結果「イメージ化をさせるための想起の仕方は参考になった」「先輩と後輩を関わらせる授業展開を参考に取り入れていきたい」から各教員のブラッシュアップに繋がる成果があった。【資料 15】 ○FD 委員会便りとして岐阜大学医学部看護学科・看護学専攻 FD 委員会取り組みを HP に掲載し、教員の意識を高め、教育の質の改善・向上を図る体制の一助とした。【資料 16】	資料 15：平成 30 年度 岐阜大学医学部看護 学科・看護学専攻 FD 委員会企画 「教 育学部 河西栄二教 授の公開授業」案 内・アンケート集計 結果 資料 16：岐阜大学医 学部看護学科 HP（FD 委員会便り ）	
--	--	--	--

平成 30 年度 認証評価にかかる自己点検評価（医学部看護学科）

基準	区分	平成 29 年度以前からの 取り組み
4	学士	教学 IR 分析開始
	修士	
5	学士	カリキュラム検討 英語教育の充実
	修士	社会人学生に配慮した講義配置
6	学士	.ディプロマポリシー (DP) の達成度調査方法の検討 (H29 ~)
	修士	達成度に関わる自己評価 (H29 ~)
8	学士 修士	FD 活動 学生による授業評価 / 教員のリフレクション 公開授業のあり方検討 (H29 ~)
4.6.8 入学前～卒業後の キャリア教育	学士 修士	岐阜県看護師定着促進事業 (H28 ~ 3 年助成): 社会貢献活動各 PG ○卒業生支援 ○地域住民への貢献 ○専門職を磨く ○高大連携 ○看護研究研修 PG

平成 30 年度の取り組み (No.は資料番号)		
特色	成果	課題
3. 教学 IR 分析結果の活用 (入学定員の見直し) 4. 3 年次編入学廃止	4. 入試業務に係る教職員の負担の軽減	4. 優秀かつ適正を供えた学生獲得のための入試方法の継続的検討
5. 入学者増加の工夫 (広報活動)		
6. 南フロリダ大学学生と合同授業 7. ディーキン大学短期留学制度開始 8. カリキュラム申請	6. native English に触れた学習効果 6. 留学生 SA とボランティア学生活用 7. 英語力向上、短期留学制度の予算化 8. カリキュラム承認	
夜間の開講と研究指導		
11. DP 達成度調査の実施	11. DP 達成度の確認 (倫理面の高得点)、評価方法の課題発見	11. DP 達成度評価方法と質問票改善
12. 達成度に関わる自己評価	12. 科学的根拠、専門職の役割説明が高得点	
13. FD 研修、講演会 14. リフレクションペーパー改善 (学士) 教員のリフレクション実施 (修士) 15. 教育学部の公開授業 16. FD 活動の外部公表: HP 掲載	13. 教員の研究・教育の質の向上 15. 他学部や他部門との連携、教員の教授力の向上	16. 優れた授業の共有に当たり他学部他部門との連携等を検討
発足から 3 年経過、中間評価	社会貢献活動の課題、方向性の明確化 ○卒業生・地域・研究支援のニーズの明確化 ○協力高校からの入学生増加 ○研究支援システムの再構築 ○附属病院・実習施設との連携強化 ○活動費の予算化	資金・マンパワー確保 ↓ (対策) 継続可能な活動の集約化、外部資金獲得、学生の活用